

第1次佐伯市林業振興計画の取組及び評価

計画期間：令和2～4年度



佐伯市農林水産部林業課

計画体系図及び目次

総合計画		林業振興計画			ページ
H30～R9年度		R2～4年度 【3年間】			
基本政策	主な施策	基本施策		個別施策	
地域資源をいかした産業と観光の創生	林業の振興	1	持続的な林業の実現	(1) 循環型林業の振興	P.4
				(2) スギ苗木生産の拡充	P.5
				(3) 林道開設による経営効率化	P.6
				(4) 市産材の利用促進	P.7
				(5) 木質バイオマスの利用促進	P.8
		2	森林の公益的機能の保全	(1) 未整備森林の整備促進	P.9
		3	将来を担う経営体の確保・育成と市民参加の森林（もり）づくり	(1) 新規就業者の確保と登録林業経営体の育成	P.10
				(2) さいぎ農林業サポート人材バンクの活用	P.11
				(3) 森林ボランティア・緑の募金の推進	P.12
		4	しいたけの生産性向上と担い手対策	(1) しいたけ生産の安定・省力化	P.13
				(2) 新規参入者・後継者への支援	P.14
		5	鳥獣害対策の推進	(1) 予防（集落環境）対策の推進	P.15
				(2) 捕獲対策とジビエ活用の推進	P.16

第1次佐伯市林業振興計画 個別施策評価について

【目標値の評価】

目標値の項目ごとに、R4年度末の実績値と目標値を比べ、その成果について評価を行う。
評価の基準は、以下のとおり。

- | | |
|------------------------|-----------|
| ・ R4実績値が目標値以上 | A…順調に推移 |
| ・ R4実績値が目標値の70%以上 | B…概ね順当に推移 |
| ・ R4実績値が目標値の50%以上70%未満 | C…やや遅れている |
| ・ R4実績値が目標値の50%未満 | D…遅れている |

【重点取組の評価】

○評価について

重点取組の各項目ごとに第1次計画期間（R2～R4）を通じ、その取組状況や成果について評価を行う。評価の基準は以下のとおり。

A…順調に推移 B…概ね順当に推移 C…やや遅れている D…遅れている

○平均評価について

それぞれの評価を点数化し、以下の計算式で算出した数値を基に評価する。

A… 3、B… 2、C… 1、D… 0

計算式：評価点合計/満点合計

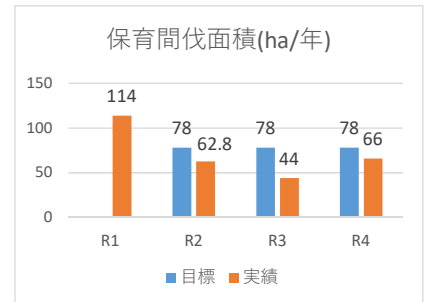
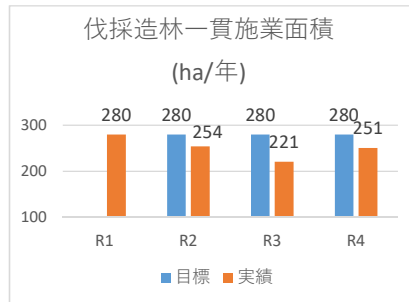
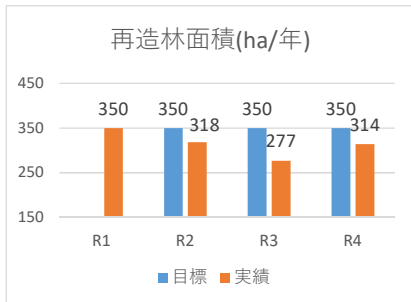
- | | |
|------------|-------------|
| 75%以上 | : A（順調） |
| 50%以上75%未満 | : B（おおむね順調） |
| 25%以上50%未満 | : C（やや取組不足） |
| 25%未満 | : D（取組不足） |

【総合評価と今後の施策展開】

目標値の評価と重点取組の評価を踏まえ、総合的にその個別施策について評価する。

- | | |
|----------------|------------------|
| A…順調に推移し成果があった | B…概ね順当に推移し成果があった |
| C…やや成果不足 | D…成果が不十分 |

1 持続的な林業の実現 (1) 循環型林業の振興											
【担当】	林業課林業振興係	R1年度	R2年度		R3年度			R4年度			
	目標項目	現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
	1 再造林面積 (ha/年)	350	350	318	90.9%	350	277	79.1%	350	314	B
	2 伐採・造林一貫施業面積 (ha/年)	280	280	254	90.7%	280	221	78.9%	280	251	B
	3 保育間伐面積 (ha/年)	114	78	62.8	80.5%	78	44	56.4%	78	66	B
	4 造林用資材運搬用ドローンの導入支援 (基/年)	-	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	D

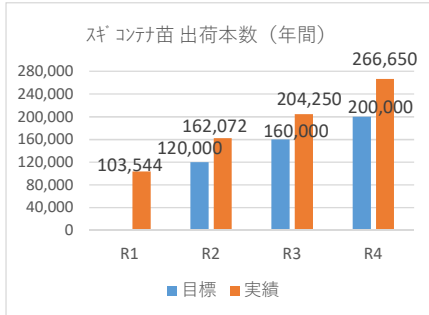


重点取組	評価	第1次計画 (R2~4) の取組状況等	平均評価
○国県と連携し、計画的な主伐・再造林を推進	A	国県と連携し、計画的な主伐を事業体へ指導し、佐伯型循環林業を推進しつつ、再造林に対する補助金の支援を行った。今後は除間伐といった保育施業を推進していく。	B
○高性能林業機械の導入による省力・効率化	A	市内に事業所を置く4事業体が県の支援を受け、国・県の補助事業を活用し高性能林業機械を導入した(プロセッサ、フォワーダ、グラブ等)。引き続き事業体へ要望調査を行い、支援していく。	
○造林コスト低減のため、伐採と造林の一貫施業を推進	A	主な林業事業体において、一貫施業を中心に再造林を進めている。特に、佐伯広域森林組合では、再造林面積全体の約8割において一貫施業が行われた。今後も造林コスト低減のため一貫施業を推進し、造林事業補助金による支援を行っていく。	
○主伐地の奥地化に伴う路網整備とともに架線系作業システムによる集材方法の検討	B	主伐地の奥地化に対する路網整備については、新規林道の開設工事や作業道整備に対し森林所有者等に補助金交付を行い、支援した。架線系作業システムによる集材方法については、施業コストの増大や、伐採面積があまり大きくないことが影響し、あまり採用されない状況である。災害防止の観点からも今後の動向を注視していく。	
○造林作業の省力・効率化を図るためのドローン導入支援	D	大分市のドローン開発企業と佐伯広域森林組合が協力し、資材運搬ドローンを開発した。しかし現状では、まだ現場で導入する状況まで至らず、ドローン導入支援までは至っていない。現場のニーズがあれば、その整備の支援を検討する。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	「佐伯型循環林業」の核となる再造林は高い実施率で推移しており、その後の下刈り等保育施業も順調に実施している。また、伐採事業者の協力により、一貫施業で低コスト造林も推進している。再造林、下刈等保育施業に対する国、県、市の補助でそれぞれの事業も確実に推進している。今後も引き続き、循環型林業を推進し、持続可能な林業の実現に向け取り組む。

1 持続的な林業の実現											
(2) スギ苗木生産の拡充											
【担当】	林業課林業振興係	R1年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1 スギコンテナ苗の出荷本数（年間）		103,544	120,000	162,072	135.1%	160,000	204,250	127.7%	200,000	266,650	A
2											
3											
4											

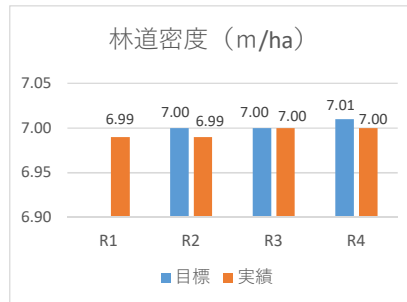
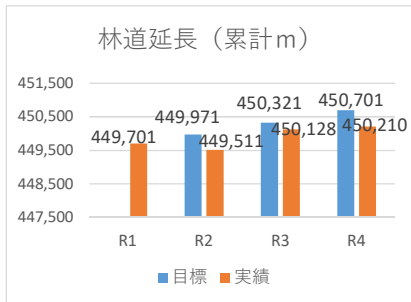


重点取組	評価	第1次計画（R2～4）の取組状況等	平均評価
南部地域苗木生産者協議会の技術向上対策	A	R4年度はコロナの影響により研修会等の開催を見送ったが、R2年10月に佐伯広域森林組合の採穂園にて母樹の管理の研修会を行い、R3年10月には3地区（佐伯地区、本匠・弥生地区、直川・宇目地区）に分かれて穂取作業及び採捕園管理などの研修会を行い、栽培技術の向上を図った。	A
苗木生産拡大に向けた生産の補助等各種支援	A	市は、出荷したコンテナ苗木に対して、補助金を交付し、地域内で調達できる苗木の増産に向けた支援を行った。また、県においてはハウス設置費等生産資器材の補助を行っている。	
関係者による苗木供給量等の情報共有	A	南部地域苗木生産者協議会の総会や苗畑調査の際に、今後必要とされている苗木量や苗木供給量等の情報共有の場を設けた。今後も関係機関と苗木の確保について、情報共有を継続して行う。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	生産者の増加と生産技術の向上、生産環境の整備が進み、生産目標としていた20万本を1年前倒して達成することができた。今後も生産拡大に向けて、採穂園の整備や生産施設に対する補助を行い、生産者とともに苗木産地化を目指す。

1 持続的な林業の実現											
(3) 林道開設による経営効率化											
【担当】	林業課林業工務係	R1年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1 林道延長（累計m/年）		449,701	449,971	449,511	99.9%	450,321	450,128	100.0%	450,701	450,210	B
2 林道密度（m/私有林ha）		6.99	7.00	6.99	99.9%	7.00	7.00	100.0%	7.01	7.00	B
3											
4											

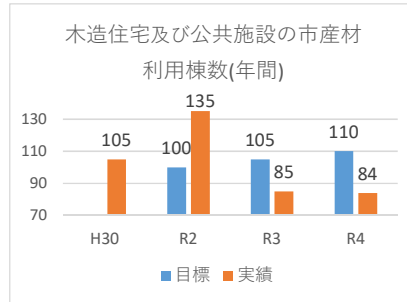
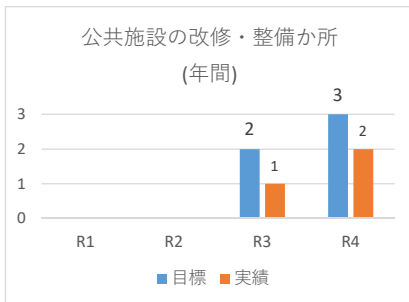


重点取組	評価	第1次計画（R2～4）の取組状況等	平均評価
国・県事業による計画的な林道開設	A	船河内2号線（青山地区）と岸ノ上庵ノ木線（直川地区）の2路線にて開設工事を行った。林道総延長は、開設による増はL=82.0mとなり、合計でL=450,210mとなった。	A
計画的な低コスト舗装事業の実施	A	利用度の高い未舗装の林道10路線について、部分的に舗装工事を行い、路面強化を図った。縦断勾配の緩い箇所はスラグ舗装の路線、勾配の急な箇所についてはコンクリート路面工1路線を実施した。舗装工事を行えば輸送時の時間短縮や安全性の向上に繋がる。また、災害に強い林道となることから今後も継続していく。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	開設整備する路線を2路線に集約することで、確実な林道の整備をすることができた。また、開設した未舗装の林道をスラグ等低コスト舗装することで、林道の長寿命化及び災害に強い林道として整備することができた。引き続き、森林整備の基盤となる基幹林道を整備し、森林整備促進を支援する。

1 持続的な林業の実現											
(4) 市産材の利用促進											
【担当】	林業課林業振興係	H30年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1 公共施設の改修・整備か所（年間）		-	-	-	-	2	1	50.0%	3	2	C
2 木造住宅及び公共施設の市産材利用棟数（年間）		105	100	135	135.0%	105	85	81.0%	110	84	B
3											
4											

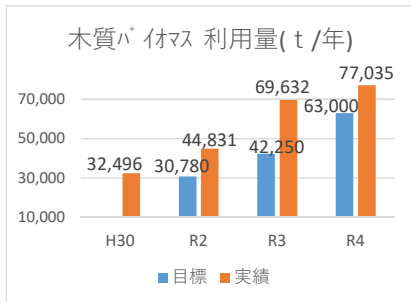


重点取組	評価	第1次計画（R2～4）の取組状況等	平均評価
木材乾燥機等施設整備に対する支援	A	R2年度に林業・木材産業構造改革事業（国の財源）を活用し、市が補助金申請を行い、佐伯広域森林組合へ木材乾燥機2基を導入した。引き続き、管内の製材業者のニーズを把握し、国・県と連携し、支援を行う。	B
公共建築物等への市産材の利用促進 ①オリ・パラ選手村に提供した木材を大会終了後に東京五輪のレガシーとして、福祉・教育施設等のスロープやベンチなどに活用 ②森林環境譲与税を活用して市産材での公共施設の改修・整備を検討	A	R3年度以降に整備予定の公共施設に木材を利用するよう庁内関係部署に周知し情報共有を行った。 ①については、R3に、オリパラ選手村で使用された木材が返還され、その後の利用方法について市HP及び市報等でアイデア募集を行った。7事業が提案され、レガシー事業として審査会を実施し、市内小中学校28校に本の面出し台を作成し配布した。 ②については、R3に青山公民館（コミュニティセンター）を市産材を利用して建設し、R4に本匠振興局の内装木質化、弥生地区上小倉消防機庫を建設した。	
一般住宅への利用促進に向けたPR活動	D	大分県木材協同組合連合会の木造住宅に対する補助事業がR3年度で終了したため、その後特にPR活動を実施していない。住宅等木材利用促進の取組みについて関係者と意見交換を行った。	
大都市圏で行われるイベント参加	D	「おおいた材利用促進協議会（県・17市町）」が、R3.10愛知県の榊山西、R3.12埼玉県のハイビック棟、R4.2県木連小倉市場にて販促イベントを開催したが、コロナ禍の影響により、イベントには参加しなかった。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	目標としていた、公共施設の木造・木質化は、達成することができた。また、市内住宅整備も市産材を利用した木造棟数も達成することができた。しかし、県の木造住宅に対する補助事業の終了やコロナ禍により、PR活動はできなかった。今後の反省すべき点である。引き続き、木材の利用促進を図り、森林資源の有効活用と価値の向上を目指す。

1 持続的な林業の実現 (5) 木質バイオマスの利用促進											
【担当】	林業課林業振興係	H30年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1 木質バイオマス利用量 (t/年)		32,496	30,780	44,831	145.6%	42,250	69,632	164.8%	63,000	77,035	A
2 ※佐伯広域森林組合の利用量											
3											
4											

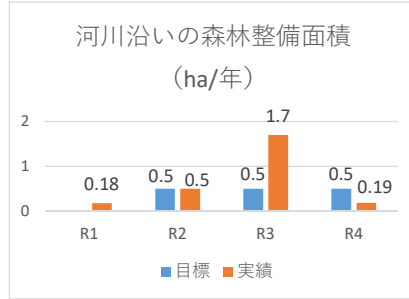
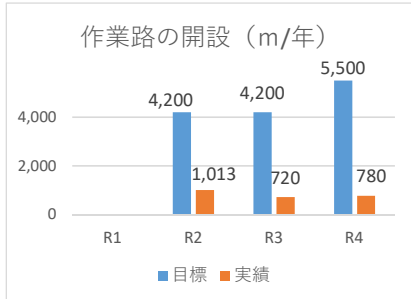


重点取組	評価	第1次計画 (R2~4) の取組状況等	平均評価
積極的な未利用材の回収・利用を促進	A	R2年度に林業・木材産業構造改革事業（国の財源）を活用して、佐伯広域森林組合が国の補助事業でチップパー1台、トラック2台、ログローダ1台を導入し、未利用材の木質バイオマス利用促進を図った。今後も佐伯広域森林組合や林業事業者等と連携し、未利用材回収状況の把握やバイオマス発電所の受入状況などの情報共有を行う。	A
チップパーや輸送用トラックの導入支援	A	佐伯広域森林組合の補助事業を市が事業化し支援した。	
公共温浴施設木質ボイラー利用の調査検討	A	公共温浴施設を所管する庁内関係部署と協議を行った。現在稼働しているボイラーの入れ替えが生じるタイミングで、木質ボイラー整備を再度協議することとした。	
木質バイオマス関連企業誘致の取組	A	企業誘致部署が佐伯市西浜への誘致活動を行った結果、関連企業（木質バイオマス発電事業者1者）が進出した。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	目標としていた、木質バイオマス利用量は、達成することができた。引き続き、二酸化炭素排出削減を目指し、未利用材の木質バイオマス利用を促進する。

2 森林の公益的機能の保全											
(1) 未整備森林の整備促進											
【担当】	林業課林業振興係	R1年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1	森林環境譲与税を活用した作業路の開設 (m/年)	-	4,200	1,013	24.1%	4,200	720	17.1%	5,500	780	D
2	河川沿いの森林整備面積 (ha/年)	0.18	0.50	0.50	100.0%	0.50	1.7	340.0%	0.50	0.19	D

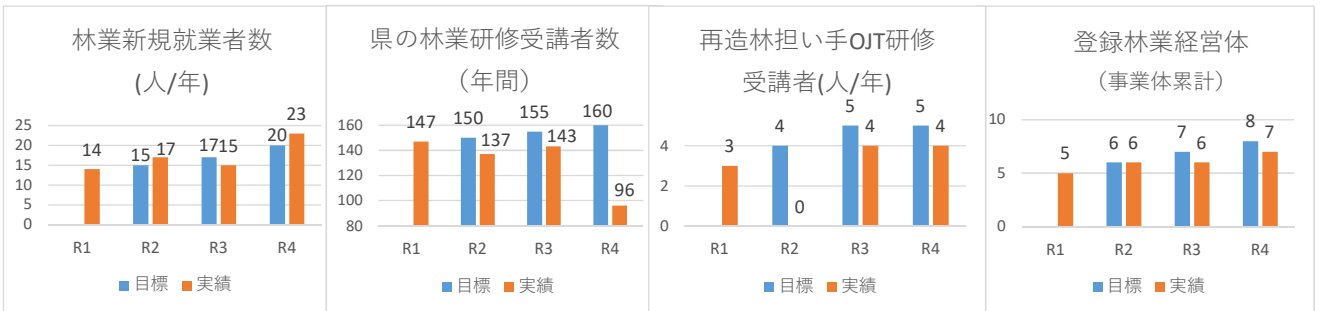


重点取組	評価	第1次計画 (R2~4) の取組状況等	平均評価
市全域での未整備森林の分布調査を促進	A	GIS図面上にて未整備森林 (森林経営計画対象外の森林) を抽出し、森林所有者・管理者の情報収集・整理を行った。	A
未整備森林所有者に意向を確認、整備を実施	A	未整備森林のモデル区域として、市内各地あわせて約346haの意向調査を実施し、森林所有者の管理に関する意向を調査した。その中で、森林所有者 (9名: 13筆) について、同意の上、R4年度に森林整備 (切捨間伐: 約1.8ha) を行った。	
未整備森林解消につながる路網整備	B	森林整備を推進するため、作業道の開設・補修の補助金支援及び森林所有者等に作業道舗装用生コンクリートの原材料支給を行った。(R2~4実績延長: 開設2513m, 補修50205m, 生コン舗装17589m)	
防災のため河川沿いの森林整備を実施	A	大分県、佐伯広域森林組合と連携し、市内 (弥生・本匠・直川地区) の河川沿いの森林整備 (人工林の伐採) を行った。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	目標としていた、森林環境譲与税を活用した作業道の開設については、森林所有者のニーズが少なく、目標達成に至らなかったが、森林整備の基盤となる路網整備の重要性に鑑み、開設及び補修整備に対し、引き続き支援していく。また、未整備森林の整備促進については、県から航空レーザー測量の成果の提供を受け、市内全域の意向調査優先順位付けを行うことができた。今後は、この結果に基づき、現況調査や意向調査を進め、未整備森林の整備を推進する。

3 将来を担う経営体の確保・育成と市民参加の森林（もり）づくり											
(1) 新規就業者の確保と登録林業経営体の育成											
【担当】	林業課林業振興係	R1年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1	林業新規就業者数（人/年）	14	15	17	113.3%	17	15	88.2%	20	23	A
2	県の林業研修受講者数（人/年）	147	150	137	91.3%	155	143	92.3%	160	96	C
3	再造林担い手OJT研修受講者数（人/年）	3	4	0	0.0%	5	4	80.0%	5	4	B
4	登録林業経営体（事業体）	5	6	6	100.0%	7	6	85.7%	8	7	B

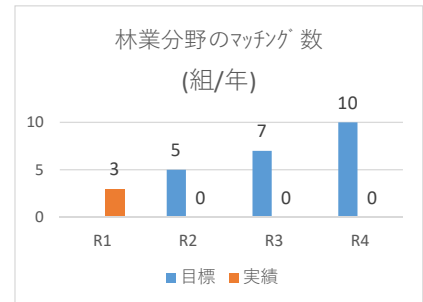
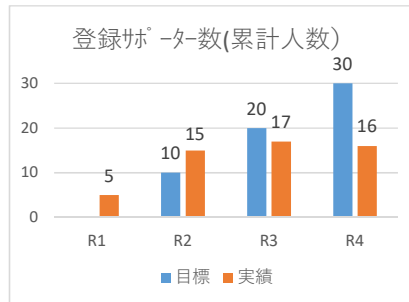
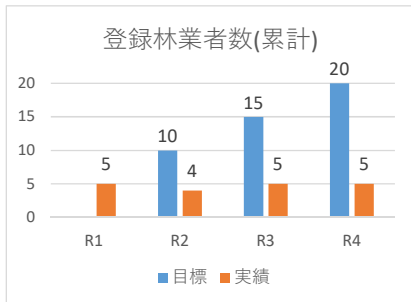


重点取組	評価	第1次計画（R2～4）の取組状況等	平均評価
移住相談会や新規就業セミナーでのPR	B	R5.2.22～23に福岡市で開催された2023佐伯市魅力フェス&移住フェアに参加し、移住希望者かつ林業就業希望者に対してPRを行った。また、市内外中高生を対象に林業の魅力伝え、理解を深めてもらうため、林業就業PR業務の委託を行い、延べ75名の学生に林業に触れてもらった。	A
研修や就業環境の改善に対する支援	A	就業環境改善のため、空調服や無線機等林業従事者が使用する資器材の購入費の補助を行った。希望のあった資器材については、すべて補助している。	
林業実践教育研修制度の利用促進	A	2事業体11名がOJT研修を行い、その賃金に対し支援を行った。また、おおいた林業アカデミーの入学希望者について市ホームページに掲載し、制度周知を図るとともに、令和4年度に、アカデミー等研修の交通費や、林業研修における研修費の補助支援制度を創設した。	
登録林業経営体の育成	A	令和4年度は登録林業経営体となった市内事業体が新たに一者あった。今後も育成林業経営体から登録林業経営体とステップアップしていくよう、育成林業経営体へ支援を行いながら県と連携し、働きかけを行っていく。	
労働安全衛生についての注意喚起	A	県や市から情報提供し、注意喚起を行った。R3、4の11月末には林災害防協主催の「伐木作業時における労働災害防止のための研修会」が開催され、佐伯市からは延べ7事業体が参加した。また、R5.3.15には佐伯労働基準監督署より「労働安全講話」が開催され、市内19事業体が参加した。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	新規就業者の確保に向け、佐伯広域森林組合や林業事業体と意見交換し、新採用職員の定着に向けた各種研修支援等を実施した。そのため、各年度概ね目標値の就業者の確保ができ、林業就業者が増えた。今後も引き続き、林業担い手の確保に向けた各種取組を行う。

3 将来を担う経営体の確保・育成と市民参加の森林（もり）づくり											
(2) さいき農林業サポート人材バンクの活用											
【担当】	林業課林業振興係	R1年度	R2年度			R3年度			R4年度		
	目標項目	現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1	登録林業者数（累計）	5	10	4	40.0%	15	5	33.3%	20	5	D
2	登録サポーター数（累計）（人）	5	10	15	150.0%	20	17	85.0%	30	16	C
3	林業分野のマッチング数（組/年）	3	5	0	0.0%	7	0	0.0%	10	0	D
4											

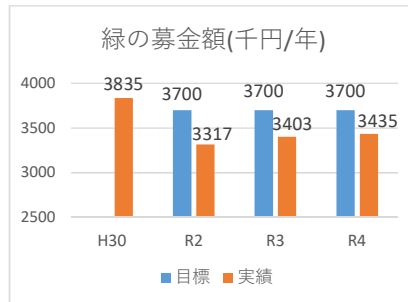
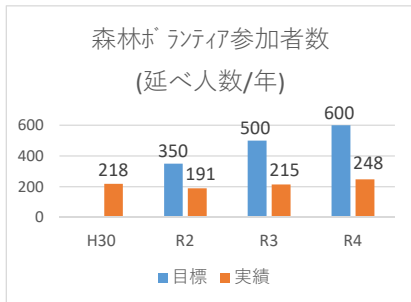


重点取組	評価	第1次計画（R2～4）の取組状況等	平均評価
林業事業者等に対する制度周知	C	市ホームページに「さいき農林業サポート人材バンク」のコーナーを常時設け、閲覧できるようにするとともに、ポスター（公民館などの公共施設に掲示）でも制度周知に努めたが、あまり制度の活用が図れなかった。	C
市報、CATVによる定期的な広報活動	D	市ホームページの充実化を図ったが、記事を市報、CATVの枠に組み込むことが十分にできなかった。今後、効率的な広報活動の実施手法を検討する。	
実績のないサポーターに求人情報の提供	A	市ホームページに「さいき農林業サポート人材バンク」のコーナーを設け、常時、求人情報の提供を行っている。	
登録している林業者への定期的な情報提供	D	林業の仕事に関する要請が少ないため、登録林業者に対する情報提供は行っていない。（現在、本登録では農業が大きなウエイトを占めている。）	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
D	さいき農林業サポート人材バンクについての情報を市ホームページ等で情報提供しているが、林業は危険な業務も多く、労使ともまだまだニーズが少ない状況にある。仕事が増えればニーズも増えることが想定されるので、様々な林業の支援を行うことで仕事を増やし、また制度の情報提供しながら、人材バンクの利活用を図っていく。

3 将来を担う経営体の確保・育成と市民参加の森林（もり）づくり											
(3) 森林ボランティア・緑の募金の推進											
【担当】	林業課林業振興係	R1年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1	森林ボランティアの参加者数（延べ人数/年）	218	350	191	54.6%	500	215	43.0%	600	248	D
2	緑の募金額（千円/年）	3,835	3,700	3,317	89.6%	3,700	3,403	92.0%	3,700	3,435	B
3											
4											

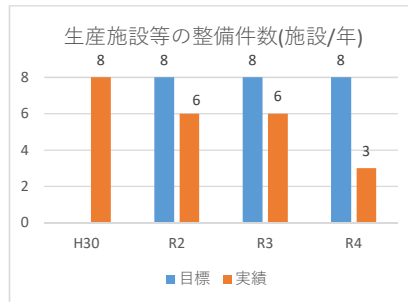
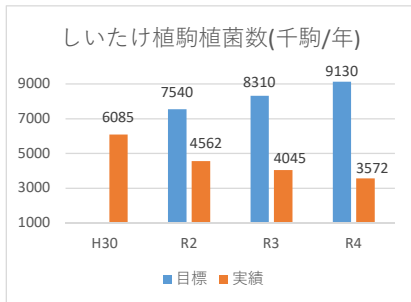


重点取組	評価	第1次計画（R2～4）の取組状況等	平均評価
森林ボランティア参加者の増加	C	森林組合、番匠商工会と共に開催した森林ボランティアを行ったが、コロナの影響により、規模縮小での開催であったため、参加者増加とはならなかった。今後、参加者が増えるよう、森林組合等と連携し、魅力的なイベントとなるよう開催内容や開催場所を含め検討して開催する。	B
森林ボランティア活動の推進	D	森林組合等と共に開催する森林ボランティアの開催について、周知に力を入れ、参加者の増加を図る予定であったが、コロナの影響により規模縮小となったため、直ぐに募集人員に達したため、周知の取り組みを行わなかった。	
緑の募金活動の推進	A	市報に募金協力依頼の記事を掲載するとともに、佐伯市自治委員会に募金協力の依頼を行い、各自治会単位での募金活動の体制を整え、募金を募った。また、地域イベント等での緑化事業として、緑化木の配布を行う際、募金の啓発、協力依頼を行った。	
地域の緑化事業に対する支援	A	市内各団体に植栽や苗木の配布等緑化事業の希望を募り、緑の募金を財源とした緑化事業の実施に対する助成を行った。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
B	森林ボランティア活動については、コロナ感染状況の悪化等に伴い、思うような活動ができず、目標の達成がかなわなかった。今後、より魅力的な催しとなるよう、関係者で意見交換し、広く参加できるように、早めの周知を心がけ実施していく。 緑の募金については、自治委員会の協力をいただきながら、募金活動及び緑化活動を実施している。引き続き、事業実施し、管内の緑化推進を図る。

4		しいたけの生産性向上と担い手対策									
(1)		しいたけ生産の安定・省力化									
【担当】	林業課林業振興係	H30年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1	しいたけ種駒植菌数(千駒/年)	6,085	7,540	4,562	60.5%	8,310	4,045	48.7%	9,130	3,572	D
2	しいたけ生産施設等の整備件数(施設/年)	8	8	6	75.0%	8	6	75.0%	8	3	D
3											
4											

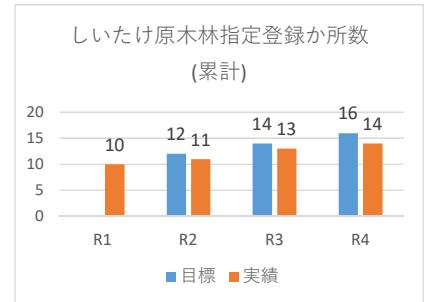
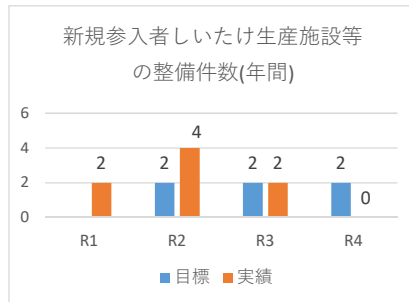
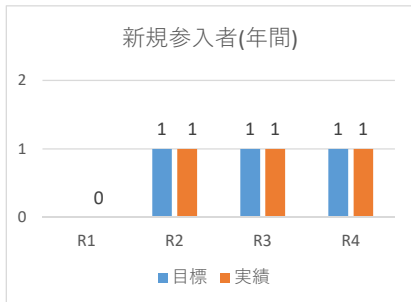


重点取組	評価	第1次計画(R2~4)の取組状況等	平均評価
品質向上施設の導入や機械化での省力化	D	原木の整備に使用するグラップルソーや林内運搬車等機械導入に対する支援を行った。グラップルやグラップルソーなど椎茸生産で利用できる重機の導入を進めることにより、重労働である椎茸生産の機械化を図ったが、生産者の減少により整備件数は減少傾向である。	C
種駒植菌に対する支援	C	椎茸生産は重労働のため、生産者の減少及び高齢化の影響もあり、植菌数は年々減少傾向にある。そのため大分県新ブランド「うまみだけ」に注力し、既存の1万駒を超えた植菌に対しての補助に加え、うまみだけ品種、うまみだけ登録生産者を対象に補助を新設した。植菌品種をうまみだけ品種へシフトし、付加価値を高め、植菌数の維持・生産量の拡大に取り組んだ。	
うま味成分や機能性などの検討	D	大分県新ブランド「うまみだけ」の生産拡大・PR・消費を図るため、うまみだけを提供する市内飲食店の仕入れに対し補助を行ったが、予想した事業実施店舗数に至らず、苦戦している。	
学校給食での利用促進	A	佐伯市椎茸生産協議会(市内椎茸生産者で構成する協議会)の協力を受け、協議会を通じて学校給食での利用を行った。また、南部振興局の協力を受け、市内保育園へ食育教室を行った。	
「全国乾椎茸品評会」の誘致	A	乾しいたけの魅力を全国へ発信するため、「全国乾椎茸品評会」の誘致し、佐伯市にて令和3年7月10、11日で開催予定であったが、市内コロナ感染者の増加や全国的な感染拡大の状況の中、総合的に考慮の上、中止した。その後、関係各所と再度協議を行い、令和4年8月6、7日に開催し、乾しいたけと佐伯市の魅力を市外へ情報発信した。2日間の総来場者数は約15,000人であった。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
C	椎茸生産の安定・省力化及び価格向上に向け、県と連携し支援を行っているが、年々生産施設整備や機械導入事業の実施者も減ってきており、市が事業は準備しているものの、事業実施者が減少しているといった状況で、生産量の減少が危惧される。引き続き、生産者と意見交換しながら、椎茸生産に必要な支援や情報提供を実施し、椎茸生産の安定化に努める。

4		しいたけの生産性向上と担い手対策									
(2)		新規参入者・後継者への支援									
【担当】	林業課林業振興係	R1年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1	新規参入者（年間）	0	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	A
2	新規参入者しいたけ生産施設等の整備件数（年間）	2	2	4	200.0%	2	2	100.0%	2	0	D
3	しいたけ原木林指定登録か所数（累計）	10	12	11	91.7%	14	13	92.9%	16	14	B
4											

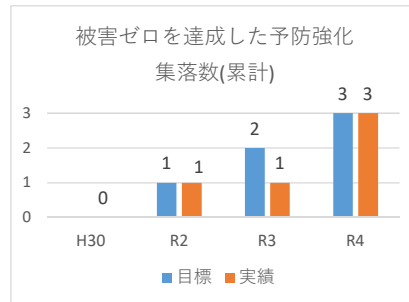
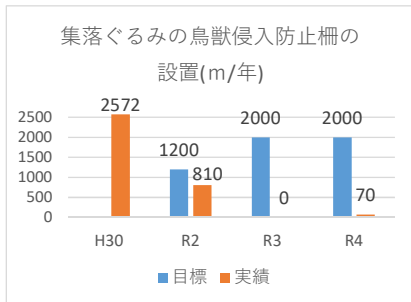


重点取組	評価	第1次計画（R2～4）の取組状況等	平均評価
新規参入の促進やスキルアップ	A	新規参入者研修等の研修会や各種事業説明会の情報を市報・ホームページや生産者訪問により提供した。	B
移住相談会や新規就業セミナーでのPR	D	コロナの影響により説明会等の機会が減少し、PR不足となった。移住相談会や新規就農した場合の収入見込み等、PRのための情報を県普及員と協力し、整理を行い、PRへ繋げていきたい。	
原木林をモデル林として指定し研修活動	A	原木林確認時に県普及員に同行してもらい、今後の原木林の指定について生産者と協議、検討を行った。引き続き、原木林への登録拡大を県普及員と協力し、行っていく。	
「原木バンク」制度化の検討	D	他県が行っている類似制度について情報収集を行ってきたが、制度化することは現状厳しい。引き続き、他市・他県で類似制度の情報収集を行い、制度化について検討を行う。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
C	椎茸生産者の高齢化及び後継者不足は椎茸生産を維持するためにも、非常に難しく重要な課題である。支援制度はあるものの、その事業が活用されていない現状がある。引き続き、生産者と意見交換しながら、ニーズの把握や必要な支援及び情報提供を実施し、新規就業者や担い手の育成に努める。

5 鳥獣害対策の推進											
(1) 予防(集落環境)対策の推進											
【担当】	林業課林業振興係	H30年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1 集落ぐるみの鳥獣侵入防止柵の設置 (m/年)		2,572	1,200	810	67.5%	2,000	0	0.0%	2,000	70	D
2 被害ゼロを達成した予防強化集落数(累計)		0	1	1	100.0%	2	1	50.0%	3	3	A
3											
4											

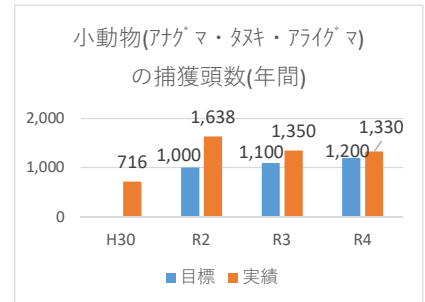
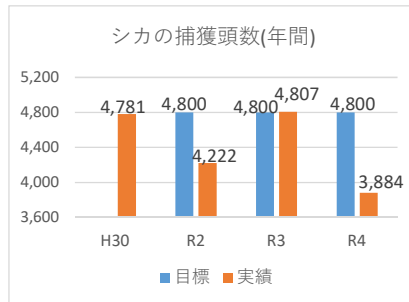
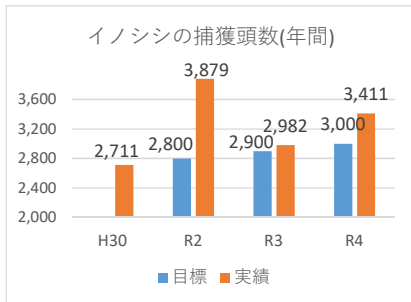


重点取組	評価	第1次計画(R2~4)の取組状況等	平均評価
集落点検の実施、被害防止対策の検討	A	補助事業を利用して設置した防護柵の管理状況点検及び直川道越地区、弥生山梨子地区において鳥獣被害の相談を受けたため、集落代表者、県職員と立ち合いの上、集落点検を行った。	A
予防強化集落の被害ゼロ達成活動の推進	A	県から予防強化集落の指定を受けている全ての地区(木立大野地区、長良津志河内、柏江、直川水口地区)で侵入防止柵の管理状況の検査を行った。侵入防止柵の管理状況の改善を促すことで、該当集落の被害を防止を促進に繋がっており、令和4年度の長良津志河内、柏江、直川水口地区は目立った農作物被害は確認されていない。	
集落代表者の鳥獣害対策研修会(県主催)参加促進	A	鳥獣被害対策アドバイザー(県認定)研修のお知らせについて、集落代表者へ通知し、参加を促した。令和3年度においては、獣害被害相談の多い木立地区の方へ案内を送付。令和4年度においては、猿被害の多い宇目(釘戸地区)の方へ案内を送付。	
侵入防止柵設置による実効性のある対策促進	A	県が指定する予防強化集落の点検や、個人で設置を行った柵の設置及び管理の指導を行うことで、侵入防止柵の設置効果を高めるよう活動を行った。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	有害鳥獣被害については、農林環境被害の常態化が進んでいる。引き続き、鳥獣侵入防止柵の設置や集落ぐるみでの被害防止対策を実施しながら、鳥獣被害防止に努める。

5 鳥獣害対策の推進											
(2) 捕獲対策とシビエ活用の推進											
【担当】	林業課林業振興係	H30年度	R2年度			R3年度			R4年度		
目標項目		現状値	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	評価
1	イノシシの捕獲頭数(年間)	2,711	2,800	3,879	138.5%	2,900	2,982	102.8%	3,000	3,411	A
2	シカの捕獲頭数(年間)	4,781	4,800	4,222	88.0%	4,800	4,807	100.1%	4,800	3,884	B
3	小動物(アナグマ、タヌキ、アライグマ)の捕獲頭数(年間)	716	1,000	1,638	163.8%	1,100	1,350	122.7%	1,200	1,330	A
4											



重点取組	評価	第1次計画(R2~4)の取組状況等	平均評価
有害鳥獣捕獲事業の継続	B	当該事業を継続事業として位置付け、有害鳥獣の捕獲許可、捕獲報償金の支払いを行った。令和4年度のシカ捕獲数については目標達成できなかったものの概ね各年度目標達成できた。	A
集落へ出没するイノシシ捕獲対策の強化	A	農林水産物に被害を及ぼす有害鳥獣の相談について、林業課で取りまとめ、適宜、佐伯市猟友会に捕獲を依頼した。獣害相談については、猟友会へ相談を行うことで、捕獲を推進した。	
狩猟者の確保対策事業の実施	A	佐伯市鳥獣被害防止対策協議会による初心者狩猟講習会費用の助成を行い、狩猟者の定着を図った。	
狩猟の各種支援策情報提供及び若年層へのPR	A	狩猟免許取得までのフローをホームページに掲載し、狩猟免許の新規取得を推進した。また、狩猟免許試験の日程や、講習会の案内等を市報を活用することで、周知を行った。	
小動物の被害調査及び対策の検討	A	小動物に関する相談受付に対し、現地確認の上、猟友会各支部へ捕獲依頼を行った。	
近隣市等との連携によるアライグマ捕獲活動	A	NPO法人おおい環境保全フォーラムがアライグマのDNA検証を行い、行動分析等を行っているため、市内で捕獲した個体(R3年4月:1体)を猟師協力のもとサンプル採取を行い、当該機関へ提供を行った。	
シビエ料理の普及対策	A	個人から相談を受けた場合に、シビエ処理施設建設や、機器導入の際に利用が可能となる補助事業の説明を行った。	
学校給食へのシビエ活用	A	第1次計画期間中に市内全給食センターで学校給食にシビエを提供した。活用実績は、令和2年度は35校(約5,700食)、令和3年度は47校(約6,000食)、令和4年度は53校(約8,000食)となり、年々増加している。	

総合評価と今後の施策展開について

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	有害鳥獣被害については、農林環境被害の常態化が進んでいる。引き続き、捕獲事業を実施しながら、シビエのPRやシビエ利活用対策も行い、鳥獣被害防止に努める。